



とねっと協議会だより VOL.20

【参加施設数】159施設（中核施設12、病院・診療所87、歯科医療機関10、調剤薬局41、検査施設6、圏域外医療機関3）

【参加住民数】34,163人（うち圏域外住民30人） *9月30日現在

発行日／ 令和2年10月26日 発行／ 埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会事務局

電話番号／ 0480 (63) 0003 FAX／ 0480 (63) 0033 URL／ <http://www.saitama-tonet.jp>

令和2年10月14日(水)に第9期通常総会を開催しました。総会では、主に次の1項目について報告し、また、2項目の議題について協議が行われました。

I 報告事項

1 国のIT医療ネットワークの今後の方向性について

国（厚生労働省研究開発振興課）から現状を確認し、その状況について報告しました。

○医療情報等を全国の医療機関等で確認できる仕組み

◇データヘルス集中改革プランの工程

- ①レセプトに基づく特定健診情報(R3年3月目途)
- ②レセプト記載の薬剤情報(R3年10月目途)
- ③手術、移植、透析医療機関名など(R4年夏目途)
- ④電子処方箋(R4年夏目途)

(参考)「とねっと」現行システムの運用期間

・H30年4月～R5年3月

II 協議事項

1 令和元年度事業報告及び収支決算(案)を承認

令和元年度の財務活動状況や普及啓発の取組などをまとめた事業報告と協議会の運営に係る収支決算が承認されました。

【収支の状況】

○決算額：10,855千円（前年度：11,835千円 ▲980千円）

事業活動収入 11,672,521円 事業活動支出 10,854,892円

当期収支差額 817,629円 前期繰越収支差額 1,226,562円

次期繰越収支差額 2,044,191円

2 令和2年度の地域医療ネットワークシンポジウムの開催対応(案)を中止と決定

今年度の地域医療ネットワークの開催については、新型コロナウイルス感染拡大を受け、現状では有効な治療薬、ワクチンがなく、感染の収束も見通せない状況であり、また、参加者は不特定多数で、重症化しやすい高齢者が多いため、中止となりました。

◆◆◆お知らせ◆◆◆

●とねっとカードの「紐付け」をお願いします。

患者情報の登録・参照には、各医療機関で患者様のカードIDを「とねっと」に登録していただく必要があります。協議会事務局による「紐付け」作業の代行も行ってまいりますので、ぜひ、ご利用ください。

●令和2年度分の協議会への負担金の納入をお願いします。

各医療機関の皆様にご連絡させていただきますので、ご協力をお願いします。なお、口座振替も可能でありますので、ぜひ、ご活用願います。

【負担金額】

- ・中核施設 年額 50,000円 ・病院 年額 20,000円
- ・診療所 年額 10,000円 ・歯科 年額 10,000円
- ・調剤薬局 年額 10,000円 ・圏域外病院 年額 20,000円

◆◆◆主な視察・取材・事例発表（現行システム）◆◆◆

- H29. 9. 5 厚生労働省の「医療情報連携ネットワーク支援Navi」へ掲載等の取材・現場視察（医政局 研究開発振興課 企画調整官ほか）
- H29. 10. 22 厚生労働省「在宅医療・救急医療連携セミナー事業」での事例発表
- H29. 12. 19 厚生労働大臣へ新「とねっと」の説明（大臣室）
- H30. 2. 4 厚生労働省「在宅医療・救急医療連携セミナー事業」での事例発表
- H30. 8. 17 内閣府規制改革推進室の視察
- H30. 11. 10 滋賀県医師会の視察
- H30. 11. 22 経済産業省・東京工業大学の視察
- H30. 12. 3 総務省・NTT東日本の視察
- H31. 1. 24 厚生労働省の現場視察・意見交換（医政局 大臣官房審議官ほか）
- H31. 2. 2 大分県「うすき石仏ネット」の視察
- R 1. 5. 30 深谷寄居医師会の視察
- R 1. 9. 25 厚生労働省の現場視察（医政局 大臣官房審議官ほか）
- R 1. 11. 5 長崎県佐世保市医師会の視察
- R 2. 2. 6 総務省「医療等分野のネットワーク利活用モデル構築」にかかる調査研究の視察
- R 2. 2. 27 県立広島大学の視察
- R 2. 3. 24 内閣府「先端衛生システムの技術動向等調査」（三菱総合研究所）
- R 2. 3. 30 日本ラグビーフットボール協会の視察
- R 2. 4. 27 内閣官房 未来投資会議における「とねっと」の事例紹介
- R 2. 8. 19 日本医師会総合政策研究機構の取材

※裏面に、「とねっと」システムの主な活用状況を掲載してあります。

「とねっと」システムの主な活用状況（令和2年4月～令和2年9月まで）

1 医療機関での参照件数（病院・診療所の所在地別）

① 病院・診療所・調剤薬局 → 中核病院 225件

（内訳）加須市25件、羽生市4件、久喜市7件、幸手市112件、宮代町9件、杉戸町68件

○活用内容

中核病院で「とねっと」に登録された病名・検査結果・画像・処方情報を病院・診療所・調剤薬局が参照

② 中核病院 → 病院・診療所・調剤薬局 23件

（内訳）加須市2件、久喜市1件、幸手市3件、宮代町4件、杉戸町13件

○活用内容

病院・診療所が検査施設を通じて「とねっと」に登録した検査結果、調剤薬局に登録した調剤情報を中核病院が参照

2 救急システム延べ使用回数：1,565回（医療機関35回、タブレット1,538回）

3 健康記録延べ使用回数：4,661回

○活用内容

スマホの「とねっと」健康記録アプリなどにより、歩数、体重、血圧等の入力・時系列参照や検査値、処方、調剤情報の入力（中核病院や調剤薬局は自動登録）・時系列参照等による自身の健康管理に活用

4 救急端末参照システムの使用状況（平成24年7月～令和2年9月まで）

「とねっと」参加患者の搬送人数 2,916人

うち、2,591件の搬送において、情報参照及び医師への申し送り等に効果

（内訳）行田市2人、加須市1,322人、羽生市9人、久喜市272人、幸手市268人、白岡市25人、宮代町212人、杉戸町481人

■救急タブレットの活用事例（消防からの情報提供）

日時	令和2年7月7日	曜日	火曜日	種別	急病	搬送先病院	東埼玉総合病院
傷病者情報	年齢	性別	傷病名		程度		
	78	男	脳腫瘍		中等症		
概要	自宅便所にて排尿後、ふらつき起立困難となり救急要請したもの。						
使用状況	先着隊の消防隊から情報の申し送りを受けた後、傷病者へ「とねっと」の加入状況について確認したところ「加入あり」との返答があったため、ふらつき・めまいを訴える傷病者に負担をかけず詳細を確認することができた。また、医師等への申し送りにも役立った。						

5 連携パス機能の活用状況（令和2年9月末現在／東埼玉総合病院）

① 循環型連携パスの適用患者数 375人

（内訳）適用患者の所在市町村別内訳

加須市7人、羽生市1人、久喜市29人、蓮田市1人、幸手市70人、白岡市4人、宮代町94人、杉戸町168人、春日部市1人

⇒ 連携パスを院内の患者に適用することによって、病院・診療所間の連携だけでなく、患者の検査実施状況のチェックや異常値の把握などにも活用

② 連携パスを用いた連携施設数 34施設

（内訳）連携施設の所在市町村別内訳

加須市2、久喜10、蓮田2、幸手10、宮代3、杉戸7